

社会情報（情報メディア）学科主催

\\ 内定者から話が聞ける! //

就職座談会 2024



4年生パネリスト



Aさん
榎並ゼミ

IT系
SE



Bさん
藤本ゼミ

リース企業
総合職



Cさん
藤本ゼミ

IT系
プログラマー



Dさん
平井ゼミ

金融系
一般職



Eさん
平井ゼミ

食品会社
一般職

- A. 榎並ゼミのAです。IT系企業にシステムエンジニアとして内定しています。
B. 藤本ゼミのBです。リース企業に総合職として内定しました。
C. 藤本ゼミのCです。IT系企業にプログラマーとして内定しました。
D. 平井ゼミのDです。金融企業の事務職として内定をいただきました。
E. 平井ゼミのEです。総合食品会社の一般職として内定をいただきました。

Q.1

就職活動はいつ頃、何から始められましたか？また、就職活動の大まかな流れを教えてください。

2023年3月から自分に合った企業業種を見つけるために様々な業界の説明会に参加しました。活動期間は3月から2024年6月までです。説明会参加を3~12月、インターンを8~12月、自己分析やESの作成を10~12月に実施しました。エントリーと面接は6月頃まで行いました
⇒詳しいスケジュールは巻末に添付。

※ES…エントリーシート

3年生の秋ごろから説明会やインターンに参加していました。それまでは、サークル活動が忙しくあまり取り組みませんでした。

実際に、向き合って就職活動を始めたのは、年明けの1月からです。10~12月には説明会やインターンに参加して社会的な知識を深め、1月には本選考、早期選考のES提出。2~3月は面接ラッシュで第3志望の企業から内定を頂く。4月には、より良い待遇を求め、絞った上で就活を続けました。5月内定を頂いた企業の懇親会等に参加、志望度の高い企業に承諾しました。

インターンへの応募は3年生の夏から申し込みを始め、大まかに自分の強みを考え始めました。3年生の2月から就活を始めました。5月頃に自己分析をし、本腰を入れ始めました。常に3社選考を受けている状態にしていたため、午前に説明会に参加して午後に面接というスケジュールや1日に説明会を2つ、面接を1つ受けたこともありました。その後、8月に内定を頂きました。

大学3年生の6月に合同企業説明会に参加しました。6~7月にESを書き始め、7~8月にWEBのインターンシップに出席しました。7~2月は学内で行われているセミナーや説明会に参加していました。2月末から早期選考に1社エントリーし、3月に17社エントリーしました。3月の平日はほぼ毎日説明会に参加していました。落ちてしまった数だけ追加でエントリーし、4~5月にも説明会に参加しました。面接は3月末~6月上旬まで受けていました。初めて内定を頂いたのが5月末で、最終的に6月上旬に内定を頂いた会社に就職することを決めました。内定を頂くまで40社ほどエントリーしました。

3年の6月にマイナビの合同説明会に参加し就活を始め、学校主催の就活座学に参加しました。本格的に始めたのは3年生の2月下旬からです。2月下旬から4月まではエントリーやESの提出がメインでした。4月中旬から面接が徐々に始まり、5月には毎週面接の予定がありました。6月からは一般職に絞ったため6~7月はほぼ毎日ESの提出や面接の予定がありました。8月初旬に就職予定の会社から内定を頂きました。

Q.2

自己分析はいつ頃、どのようにしましたか？

3年生の10月から行いました。ゼミ活動や授業、インターンシップなどを通して、自分にとって何が楽しくて、何が楽しくないのか、何が苦痛で何が苦痛ではないのかを考えることで自己分析を行いました。ただ、自己分析だけでなく他己分析を行ってもらうことで客観的な目線から自分について知ることができるので、ESのガクチカや強み・長所を書くことができたのでオススメです。

※ガクチカ…学生時代に力を入れたこと

3年生の秋ごろから行いました。自分自身を分析するのは難しかったため、自分の心に強く残っている出来事を書き出し、どのような気持ちで動いたのかを洗いざらい明らかにしました。細かい出来事でも、企業に言えないようなことでも分析材料として自己分析に利用しました。また、友人や先輩、後輩に自分は、どのような人なのかを質問して、他己分析も行いました。

学校で行われていたマイナビさんの自己分析を5月頃に行いました。その後は、Googleで自己分析ができるサイトを検索して2種類ほごしました。また、自己分析だけでなく、性格診断でどのような部分が強みになるのかを見つけました。

7月に学内で行われたセミナーで自己分析をしました。そこで、自分の強みや弱み、特技や挫折経験、アルバイト先や家族、友人といるときの自分の役割を書き出しました。また、家族や友人に自分の長所や短所を聞き、自分が思っている事と違った意見を聞くことができたので、他人から見た自分を知ることは重要だと思いました。

自己分析は本格的に就職活動を始めた3年生の3月頃に行いました。ほとんどの企業が3月中にESの提出を求められることが多いため締め切りと重なり苦労しました。なので3月までにガクチカと自己分析を整理しES用の文章まで用意ができているとスムーズに進めることができると思います。

Q.3

業界研究、企業研究について具体的にどのように調べましたか？また、業界は絞って受けていましたか？

業界、企業研究は説明会やインターンシップに参加して調べました。説明されたことはとりあえずノートに全部書いて、後で見直す様にしていました。また、受ける業界については絞っていません。

業界研究では、説明会やインターンシップに参加することで理解を深めようと努力しました。業界によつての専門用語など多くあるので、就活に関するものだけでもイメージとして言葉を理解できるようにしました。企業研究では、企業のHPを見ることと日経新聞で企業の取り組みを調べることで、商材があればどのようなターゲットにしているのかなどを詳しく調べてその上で更に知りたかった場合にはOG訪問を行いました。

業界については大まかにGoogleで検索して調べました。企業研究は、就職した人や選考を受けた人、退職した人が書き込んでいるサイト(ワンキャリアや就活会議、openwork)を見ていました。必ず検索候補に「企業名+やばい」と出てきますが、何がどう「やばい」のかを自分で調べることで、ほかの企業についても自分に合っているかどうか考える目安になると思います。業界は絞っていましたが就活を続ける中で絞る業界は変わりました。

合同企業説明会で業界についての説明がありました。企業研究については、合同企業説明会で受けた印象をメモしたり「Openwork」というアプリで実際に働いている人の口コミを見ていました。業界は絞らず、業種を絞り就職活動をしていました。

マイナビとキャリアセンターを活用していました。最初は、業界を絞って受けていましたが、勤務地は関西で働きたいという思いから業界は絞らず業種を一般職に絞って受けていました。企業研究は、企業の公式サイトやワンキャリアや就活会議などを利用して情報を得ていました。

Q.4

この業界に進もうと思った最終的な決め手は何ですか？

4年間で学んだことが少しでも活かせ、またこれから需要が高まり将来性のある業界だと思ったからです。

多角化している業界がいいと考え、それを決めてにしました。予想の出来ない将来に対応していける、必要とされ続ける業界がいいと考えIT、金融を中心に受けていました。

やってみたいと思うことより、今まで自分がやってきたことで何に達成感を感じたのかを考えたことです。また、面接官の方の話し方や雰囲気を決めました。

金融業界は安定しており、長く働きやすいと考えたからです。また、生活の基盤を支えているので社会貢献度が高い点に魅力を感じました。

ゼミで食品を扱う企業様と関わる機会があり、そこから食品業界に興味を湧いたからです。また、就職先は海外事業に力を入れていることに魅力を感じました。

Q.5

企業を選ぶうえで何を重視しましたか。また、そう考えた理由は何ですか。

勤務地が実家から通えるかどうかを重視しました。初めての環境(仕事・人間関係)で暮すのは、肉体的・精神的についていけないと考えたからです。また、奨学金返済のために一人暮らしの余裕がないと考えました。そのため、内定時に勤務地も決まる企業を選びました。また、人材育成に力を入れているかにも注目しました。プログラミングが得意ではないので、すぐに仕事に参加するのではなく研修期間が長い所を選びました。研修期間が長い程人材育成に力を入れていると思いました。

給与面、福利厚生を重視しました。自分自身のワークライフバランスを保てるかどうかを将来的な幸せに繋がると考えていたからです。また、実際に懇親会などに参加し、温度感や同期、社員さんの色もミスマッチを減らすために大切だと感じました。

勤務地、休日などの福利厚生や残業時間、社員数を重視しました。理由は、私生活との両立、役職についている方との交流がしやすいと考えたからです。

福利厚生と長く働ける会社です。「年間休日120日以上、土日休み、転勤なし」を条件に会社を探していました。長く働くことで経験を積んで、より大きな仕事を任せてもらい、必要とされる存在になると思います。長く働くためには、育休産休制度が整った会社であることが大事だと思いました。入社を決めた会社は女性が長く働くための制度があり、転勤がないことや年間休日120日以上だったのでワークライフバランスを実現できると思いました。

一番重視したのは社風です。社風が自分に合うことで自分の能力を最大限に発揮できると考えるからです。他は、勤務地と入社後の研修制度もしっかりあるところを重視しました。特に、社員同士が仲が良いことや、風通しの良いコミュニケーションを大切にしているとお話を聞き、現場で大切にされている企業文化が印象的でした。

Q.6

面接対策はどのようにされましたか？また、実際の面接でどのような質問をされましたか？

聞かれそうな質問に対する答えを作ったり、キャリアセンターで模擬面接をしたりしました。主な質問は、趣味は何か、授業での学びについて、ゼミでの学びと大変だったこと、長所短所とそこから学んだこと、なぜIT業界を選んだのか、なぜうちの企業なのか、なぜSEなのか、3年後、5年後の将来像は？などについて聞かれました。経験からの学び、短所の克服、結果よりも自分の考え方を見られている気がしました。なによりも企業との相性を見ていると思います。

毎回面接で話した内容を書き出していました。練習などはせず、実践のみで回数をこなして慣れるようにしました。実際に面接での質問は、ESに関するものはもちろん、自分自身のキャリアプラン、目指している理想像、リーダーシップに関する話、企業への理解度を試される質問など様々でした。一番困った質問は、高校生の時に部活と勉強以外で力をを入れて取り組んだことへの質問、そして企業の創業者の前職に関する質問です。

マイナビの方との面接対策や今まで選考を受けた人の記録を見て対策をしました。実際の面接では、ガクチカ、強みといったよくある質問から趣味や、この先の人生でやってみたいことを具体的に質問されました。

学内のキャリアセンターを積極的に活用しました。オンライン面接と対面面接は全く違うので、それぞれにあった面接対策をして頂きました。MUSESにある先輩の就活レポートや「ワンキャリア」というアプリ、ネット等で見た面接の質問内容をメモし、回答を事前に考えていました。業界や会社によって質問内容の系統は変わるので受ける会社すべて念入りに確認しました。回数を重ねることで今まで質問されたことがないような変わった質問にも答えることができました。

キャリアセンターで模擬面接をしていただきました。場数を踏むことで面接が上手くなると思っているので様々な企業の面接も受けました。質問はガクチカや自分の強み、志望動機といったESの深堀が多かったです。その企業に合わせて答え方を変えたり、丸暗記はせずになるべく自分の言葉で話していました。対策としては、キャリアセンターの活用やワンキャリアで過去に質問された内容が記載しているのでそれらを参考に練習をしました。

Q.7

これだけは伝えておきたい！
という面接のコツを教えてください。

まず、用意した答えを全文覚えないうことです。覚えてしまうと、少しでも言葉が抜けたり詰まったり、想定外の質問をするだけで頭が真っ白になり答えられません。伝えたい部分を覚えておいてあとは流れて話す方が良いでしょう。後は、慣れることが一番のコツです。また、ESは聞いてほしいことだけを書くようにしました。質問に答えにくくなるので聞いてほしいことだけを書きました。また笑顔で話すことを心がけました。緊張していても「頑張っていて話してくれている」という印象で受け取ってくれました。

面接官もひとりの人間ということを知って臨むこと。覚えた台本を話すのではなく、今は、「一人の会社の方とお話する機会」というようにとらえていました。また、聞いてほしいところをあえて含みを持たせて話して、企業の人の興味を持ってもらえるように努力していました。

先生やアルバイト先のお客さんとの会話の様に、言葉遣いに気を付けながらも自分らしく振舞うことが大切だと思います。わからないことは、わからないと正直に答える勇気も必要だと思います。また、内容を暗記してしまうと台本を読んでいる感があること、間違えてしまった時、予想外の質問が来た時に答えられなくなってしまう事もあると思います。これは面接ではありませんが、SPIや企業独自のテストの受験時にたくさん答えないうことと思い、適当に回答すると正答率からそのことが見破られることもあるので自分のペースで答えていってほしいです。

明るくハキハキ、眼を見て話すことです。緊張していて最初は全くだきませんでした。回数を重ねることが重要だと思うので、本命の会社を受けるまでに20回は面接を受けるつもりでたくさんの会社をエントリーするべきだと思います。

一番大切にしていたことは笑顔です。そして絶対、丸暗記はせずになるべく自分の言葉で話せるようにすること、ESをもとに質問されることが多いため書いてあるところについてはしっかりと答えることができるようにすることです。とにかく上手くなるには場数を踏むことだと思います！

Q.8

自分は他の人と比べてここが違うぞ！というところは何ですか？また、その強みをどうやって見つけられましたか？

何事も「やってみます」の気持ちで1番初めに対応しようとするところです。ゼミ活動の中で身につけた強みです。少しでも良い物を作れたら、手伝えたらと思い何事も「やってみます」と真っ先に動いていたら、他己分析でそこを良いところとして挙げてもらい見つけることができました。

面接では、自分の視野の広さ、リーダーシップ、チャレンジャー精神などをエピソードごとに使っていました。人の変化に気付くことが多く、サークル活動でも人の表情の変化に気を配りながら進めていたことを自分の視野が広いという強みのエピソードとして話していました。

責任感と面接中の表情です。アルバイトで培ったものを「責任感」とまとめるのではなく、責任感を強みと感じた経験やそれまでの過程を話すことで、自分がどのような人間かを表すことができました。表情は、趣味やガクチカ、大学での勉強内容を話すときは柔らかく笑顔で、自分のしたいこと、これからのビジョンを伝える時には真剣な表情にすることで、自分の伝えたいことが伝わると思います。実際に、内定先の面接官の方の印象として私の思いが表情によって伝わったと言っていました。

諦めないことです。面接もESを書くことも苦手でしたが先生、キャリアセンター、家族、友人などたくさんの人から助言をもらいブラッシュアップしました。「諦めない」という強みは会社でも発揮することができると思うので面接では、アルバイトや習い事、ゼミ活動の話の中で自分の強みを伝えられるように意識しました。

自分の強みは「諦めない粘り強さ」です。小学校1年生から高校3年生の11年間習字を習っていました。習字を通して習字の資格が欲しいと思うようになり、自主練や一対一で先生に指導して頂きながら練習をしました。その結果、希望の資格を取得することができ、更に高校生まで指導できる資格も取得しました。また、親や友人に自分の印象を聞いて強みを見つけました。

Q.9

情報メディア学科は企業からどんな印象を持たれているか、就活中に感じたことがあれば教えてください。

OGの方がいらっしゃる企業の説明会に行ったときに人事の方が「まじめに、しっかりとしている」印象ですとおっしゃっていました。

私はよく「何してるの?」と聞かれました。企業の方に伝えるために、自分が学んできたことをしっかりと言葉に変換することが大切だと感じました。

説明がないとどのような学科かあまり浮かばないと言われました。説明することで、文理融合であることを知って頂き「プログラミングできるんですか」という質問が来るようになりました。武庫女の知名度はかなりあると感じましたが、社会情報学部に変更される前の情報メディア学科は、学科名だけでは学科の内容が伝わらないと思いました。

SEを募集している会社は武庫川女子大学の情報メディア学科の学生を非常に求めているように感じました。事務職を希望しているとなぜSEではないのか聞かれることが多かったです。

面接でどのようなことを学んでいるのかと聞かれることが多かったためしっかりと答えられるようにしておくべきだと思います。情報系以外（マーケティング、映像制作など）も幅広く学ぶことができると説明できるようにしていました。特に映像制作に興味を持ってくださる方が多かったため、そこからこういった場面で自分の強みを発揮することができたなど自分の強みと繋げて話していました。

Q.10

興味を持っている職種以外にも見学や面接に行きましたか？また、そこで参考になったことがあれば教えてください。

他の業種の説明会にも行きました。色々な業種を知ることができるので良い経験になったと思います。元々、SEは視野に入れていなかったのですが、見学に行ったところイメージと違い、面白いと思えたので、興味がなくても参加してみることで、選択肢が増えると思います。

行きました。食品メーカー、美容、観光、商社、広告など幅広く受けていました。やりたい仕事を見つけることが難しかったため、自分との温度感や価値観に合う会社を探していたので業界ごとの温度感を感じることができたのは良かったと感じます。

テレビ業界やウェブ、食品業界で面接を受けました。自分の第一印象や強みについて聞くことができたことや、企業によって面接が異なるため、フィードバックをしていただいた企業は練習になりました。

行きました。SEは在宅ワークが多く、転勤もない会社が多かったです。ワークライフバランスを重視したい方はSEがいいと思います。営業職は業界によって大きく印象が変わるので色々な業種の説明会に参加し、自分にあった業界を探すべきだと思います。

業界を絞らず受けていたので様々な業界の会社説明会、面接を受けました。実際に説明会に行くと自分に合う、合わないと感じることがあるので幅広い業界を受けてよかったと思います。

Q.11

インターンシップに行くと周囲との差をつけられるとよく聞きますが、参加はしましたか？また、参加して良かったと実感されたことがあれば教えてください。

参加しました。ただ1dayのみです。私は、友達と就活の状況について深く話す機会がなかったため周りの就活状況知りませんでした。そのためインターンに参加することで、皆と比べての進み具合や業界の理解度について自分の位置を知ることができました。ただ、そこまで気にして比較しなくても良いと思います。就活は自分のタイミングがあると思うので、「周りはその感じなんだ」くらいの軽い気持ちで参加して大丈夫だと思います。

参加しました。仕事を体験することができるのはもちろん、実際にその会社を受けるか迷っている同期の姿にも刺激を受けたり、情報交換を行うことができたのでその面は良かったと思います。ただ、専門用語などの解説などは基本的に行われないので、その分野の専門用語を理解した上で参加することが一番効果的など感じました。

参加していません。働く時の目安になると聞きましたが、実際に会社へ出向くもの以外は面接のグループディスカッションの練習になったと聞きました。

2社参加しました。WEBだったので会社の雰囲気はあまり分かりませんでした。そのため、対面のインターンに参加した方がいいと思います。友人は3daysや1週間のインターンに参加し、早期選考の案内が来ていました。インターンで優秀な学生だけ早期選考に呼ばれる場合など様々です。早期選考にエントリーしたい方や実際に働くイメージを付けたい方は多くのインターンに参加すべきだと思います。

1日体験に参加しました。早期選考への応募資格やES免除などの待遇がもらえるので心の余裕になります。すこしでも気になる企業があれば参加しておいた方がいいと思います！

Q.12

就活のために、利用していた施設やイベントを教えてください。

キャリアセンターやマイナビの合同説明会を利用しました。

あまり利用していません。OG訪問のやり方を聞くために一度利用しました。

キャリアズの企業説明会イベント、キャリアセンターを1回ずつ利用しました。

学内のセミナーに参加していました。SPIの対策や面接のコツ、業界研究など幅広いセミナーがあったので積極的に参加しました。

キャリアセンターを活用していました。説明会から面接まですべての相談にのって頂けるので行き詰った時や面接前は必ず利用していました。

Q.13

学業と就活の両立はどのようにしていましたか。

学業が忙しくないとき、例えば5,6,9,10,11月等の最終課題が立て込まない時期に説明会やインターンに参加するようにしました。企業の説明会やエントリー、面接が重なったのが3年の1月～4年の6月だったので、3年を終えるまでに単位をほぼ取り終えたことで、就活に力を入れられる時間が増えました。単位を計画的に取ることも両立に繋がるのではと思います。

授業があまりなかったのも、むしろ就活しかしていない印象でした。授業があるところに面接ある感覚かなと思います。

3年生までに大体の単位を取っていたので、特に両立したという感覚はありませんでした。学校と週に1日、2日就活、1日、2日学校で間にアルバイトもしていました。

4年生の前期までは、特に学校と面接の日が被ってしまうことが多かったです。3年生の後期までになるべく多く単位を取っておくことで就活中の負担を軽減できると思います。

就活中はゼミだけだったので就活に専念していました。3年生までに単位を取れば問題ありません！

Q.14

就活中の失敗談と成功談を教えてください。また、それらを踏まえて、こう改善すればよかった！という点があれば教えてください

失敗談から得た改善策は、「迷ったとき・悩んだときにはすぐに相談すること」です。できるなら現在の就活状況を知っていて自分の知っている人が良いと思います。例えばゼミや授業でかかわった先生などです。「なんでもいいから内定もらえたら」と動いていたとき、悩んでいたのに相談しなかったために2か月も時間を無駄にしました。エントリーも落ちるので、ゼミの先生に相談したところ1か月以内に内定が決まりました。このように迷ったり、悩んだりしたら誰かに相談することが解決への第一歩だと思います。成功談は、授業やゼミで色々なことに積極的に取り組んだことです。興味のあるなし、得意不得意が分かり自己分析に役立てました。また、興味がないことにも取り組みました。興味がなかったプログラミングも授業で思い通りに動く面白く感じるようになりました。この経験からSEも良いかもと思えました。

失敗談は、慣れきたときにひとつひとつの面接の機会を大切にできなかったことです。流れ作業になってしまい、企業の方と話せるチャンスだったのに逆質問のテンプレを使ってしまっていて、その内容が実際には自分の聞きたい内容ではなかったことです。成功談は、ESの通過や面接の通過をライブの当選用に捉えていたことです。実際に選考に落ちてしまって落ち込んだ時もあったのですが、落ちた企業に時間を割くのは悔しいと考えることで気を軽くしていました。

失敗は、周りと比べて焦って自分を追い込んだこととグループディスカッションでのマイクの不調や話す内容が浮かばなかったことです。SNSで内定をもらったという投稿見たり、最終面接と聞いただけで焦っていました。周りと比べてしまうことはグループディスカッションにも影響があり、スピード感が必要な状況で周りの人がどんどん意見を出すことで、自分も焦ってしまい、逆に頭が真っ白になってしまったことがありました。そのため、しんどくなったときは、SNSを遮断することや一度何も考えない時間を作ることで落ち着くことができました。良かったことは、警官が少ないことでも、技術ではなくやる気や興味を示したことです。全員が未経験であった場合、現時点での知識や興味を伝えることで、そのものに対する熱意が面接官の方などに具体的に伝わりやすいと思います。

ESの書き方を3年生のうちに完璧にしておくべきだと思いました。本エントリーが開始してからかなり忙しくなり、時間が足りずESを提出できなかった会社もあったので、よくある質問（ガクチカ、業界の志望動機、業種の志望動機）の300字、400字のテンプレートを3年生のうちに作っておくことをおすすめします。また、キャリアセンターや先生、先輩などたくさんの方にみてもらいブラッシュアップしたものを提出してください。面接対策については、面接の予定がなくても3年生のうちにキャリアセンターで模擬面接をしてもらい、感覚を掴むことをおすすめします。成功談は、3年生の6月から企業説明会に参加したことです。就活をはじめた頃は、会社も業種も何もわからなかったのですが、説明会を通して中小企業をしたり、事務職の中にもそれぞれ違った仕事があることを知りました。また、SPIやWebテストの対策を3年生の夏から始めました。簡単な問題であっても問題量が非常に多く、時間も少ないので対策すべきです。正確に、早く解く事を意識して様々なテスト（IT能力適性検査、玉手箱、内田クレベリン検査など）の種類に対応できるようにしてください。

失敗談としては周囲と比べてしまっていたことです。周囲と比べても自分を追い詰めるだけなので「自分は自分」と自分のペースで焦らず就活をしていたら、少しは心に余裕を持つことができたのではと思います。成功談は面接が苦手な最初の頃は1次や2次面接で落とされることが多々ありました。そこでキャリアセンターを利用して模擬面接をしたり、自宅で練習することで段々とコツを掴めるようになりました。面接が上手くなるためにはとにかく場数を踏むことだと思うので、志望度が低い企業で練習がてらに受けてみるなど経験することだと思います。

Q.16

就職活動において、ポートフォリオ（作品集）を作成しましたか？また、いつどのように作成したか教えてください

作成していません。

用意していません。
今までの作品はInstagramに上がっていたので、リンクを貼っていました。

作成しました。ウェブ関連の企業を受けたときに必要になったためです。業界を希望している人は受ける1.2か月前くらいから準備した方がいいと思います。

作っていません。

作成してなかったです。

Q.17

就職活動用のスケジュール帳は作りましたか？また、スケジュール帳をうまく活用できた例があれば教えてください

作成していません。

スケジュール帳は作らず、プライベートで使っているスケジュールアプリに色分けして書き込んでいました。

作っていません。
企業情報をまとめるノートを作ることで、スケジュールも管理できました。

説明会、ES、面接の予定を管理していました。期日ギリギリに提出するのではなく、先々のスケジュールも意識しながら提出の3日前までにはESを提出するように心がけていました。

+α

パネリストの先輩が提供して下さった就職活動のスケジュール表などを巻末資料として添付します

Q1「就活の開始時期と大まかな流れについて」

Aさん（榎並ゼミ）が詳細な項目別のスケジュール表を作成して下さいました。是非、就職活動の参考にして下さい。

【詳しくはこちら】

<https://dim.mukogawa-u.ac.jp/wp-content/uploads/2024/12/0f07746cdb59f4a01426e7e3e73ff87e.jpg>